教育会だより　特別号

令和3年5月27日
公益社団法人諏訪教育会
会長　池田　秀司

『　より深める　より開く　より据える～今できることを、できる形で～』

諏訪教育会　会長　池田　秀司

例年よりも梅雨入りするのが早そうで、小学校の運動会や中学校の中体連の開催が心配されます。会員の皆様並びに関係各位には、日頃より諏訪教育会に対しまして、ご理解ご協力いただいておりますこと感謝申し上げます。

本来ですと、定期総集会において皆様にご挨拶すべき所ではありますが、昨年度に続き、本年度も新型コロナの影響で、定期総集会を行うことができないことをとても残念に思います。

本年度の定期総集会は、午前の定期総集会と午後の季節大学会を分け、午前の定期総集会のみの半日開催をする１年目になる予定でした。そんな新しい試みをおこなおうとするとともに、「公益社団法人　諏訪教育会」となって 10 年を迎えたことを感謝する総集会となるはずでした。なんとか開催ができないかと、検討を重ねてきましたが、諏訪圏域における新型コロナ感染状況が改善されず、やむなく断念いたしました。来年度は、明治 15 年に設立された「諏訪教育会」が 140 年を迎えます。140 周年の定期総集会が開催できることを心から祈っています。

公益社団法人となった平成 24 年は東日本大震災の翌年で日本中が復興に向けて頑張っている年でした。この年の諏訪季節大学会では東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授　姜尚中　氏（現　東京大学名誉教授　学校法人鎮西学院鎮西学院大学学長　等）を講師にお迎えし、「悩む力」と題してご講演をいただきました。講演の中で姜尚中氏は『大きな大きなエリートは必要ありません。小さな小さな、しかし確実に地域社会の中で根ざし、そしてそのようにして生きられるリーダーたちが必要です。教育というものはすぐに効果が出てくるわけではない。おそらく教育の効果は十年後二十年後だと思います。（中略）本当の意味での中堅の、本当の意味で良き住人、良き市民として、そして、私たちの目線でものを見ながらこの地域社会を担えるような人材を育てていっていただきたいと思います。』と述べておられます。地域を思い子どもを育てる、公益社団法人としての一つの方向を示していただいたように思えます。

本年度の諏訪教育会テーマは「より深める　より開く　より据える」サブテーマを～　今できることを、できる形で ～ としています。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策に追われました。やらなければならないことが次から次へとでてきて、逆にできないこともどんどんと増え、学校現場は大混乱でした。そんな中でも、それぞれの学校が、それぞれの先生方が、工夫を凝らし、授業や行事を行ってきました。本年度も、長期にわたる休校はないにしても、その対応には頭を悩ませています。新学習指導要領が完全実施となり、ＧＩＧＡスクール構想が始まる中で、不安や心配を抱える先生方も多いのではないでしょうか。私たち教職員は、子どもたちのために、学び続けていかなければなりません。そのために、昨年度の経験をみんなで共有し、コロナ禍の中でも子どもたちのために私たちができることはどんなことかを、学び合っていきたいと考えています。皆さん、ともに学び合いましょう。

本年度の諏訪教育会も、今まで諏訪教育会の精神と伝統を受け継ぎ、さらに発展させてこられました諸先輩の皆様、そして本会の活動を支え続けてくださった関係各位、並びに地域の皆様に感謝しつつ、すべての皆様の思いを受け継ぎ、更に発展させていきたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いします。

甚だ簡単ではありますが、令和３年度のスタートにあたっての会長の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

令和３年度も充実した活動を展開します～各部の事業～

◇◇◇教科等研究部◇◇◇

学び合いの場の確保
課題の解決につながる
情報交換の場
授業力を高めるための研修会

＜研究テーマ＞
各教科等の見方･考え方に着目して「主体的･対話的で深い学び」の視点から授業改善を図るとともに、カリキュラム･マネジメントを確立して教育活動の質を向上させることにより、３つの力をバランスよく育む。（３年次）
○事業の３本の柱
①新学習指導要領の趣旨に基づく実践研究
②会員や地域に開かれた委員会活動
③中核的な研究会･研修会の開催

中止になった総委員会にかえ行った各部委員会。教科等研究部委員会において事業、重点について話をする小口部長

◇◇◇研　修　部◇◇◇

豊かな人間性や専門性を高める

＜重　点＞
時代の変化に柔軟に対応し、豊かな教育活動が営まれ、新しい教育の確立に資することができるように、研究･研修を通して教職員の資質向上を図る。研究を深め、具体的なあり方を究明する。

「教育会新入会員研修会」（５／１７，５／２８）
「赤彦祭」（１０／２）
「諏訪の子どもや教育を語る会」（１１／１３）
教養委員会による研修　情報化の推進

各種助成事業についても積極的にご利用ください
・研究会　・県外視察　・地域視察　等

◇◇◇専　門　部◇◇◇

現場に生かす研究の提言･技能普及
地域に開く活動の実施

＜研究テーマ＞
豊かな心とたくましく生きる力の育成を目指し、教育の今日的課題を踏まえ、各領域の専門的な研究を深め、具体的なあり方を究明する。

○児童･生徒に生きる活動、保護者･地域に開かれた体験活動
図書館を活用した情報活用力
子どもの豊かな育ちにつながる幼･保･小の連携
プログラミング教育　健康なライフスタイル
地域の環境問題
人々が心地よく暮らせ、支え合っていきる社会
科学する心を育てる

◇◇◇広　報　部◇◇◇

会員相互の理解と研修
地域の生涯学習等への寄与

＜重　点＞
会員の教育実践を中心にした会員相互の理解と研修に役立つ学術的図書として、また、機関誌としての情報提供や教育研究資料の累積、会員の資質向上、地域の生涯学習等への寄与を願って、編集･発行する。
○会誌「諏訪教育」の発行
第１４１号（９月末）
第１４２号（２月末）
○「会報」（２２１～２２４号）の発行
年４回　６～７月、９月、１１～１２月、　２月

新型コロナウイルス感染予防のため小学校、中学･特別支援学校の先生方で２回に分けて行った教育会新入会員研修会。教育博物館の齊藤先生のお話を聴く新入会員の皆さん。

◇◇◇季節大学会◇◇◇

教師としての専門性を磨く
人間性の向上を図る
自らの教養を高める生涯学習の場

＜趣　旨＞

この会は、学術の普及・産業の振興及び郷土の文化の向上を図ることを目的として、諏訪地域6市町村のご協力を得ながら、専門分野で活躍されている著名な方々のお話をいただいている。

　様々なジャンルの方々の講演・講習等の機会を設けることによって、教師としての専門性を磨くと共に人間性の向上を図ろうと考える。また、広く地域住民にも呼びかけて、共々に自らの教養を高めていく生涯学習の場として位置づけている。

～本年度は公益社団法人化10周年
記念講演会～

◇◇◇郷土調査研究部◇◇◇

「諏訪歴史ハンドブック（古代・中世・近世編）
発刊に向けた編集活動
教育会120年以降の資料収集

＜方　針＞

諏訪教育会の伝統を継承し、「新しい教育の確立」を願いながら、郷土の歴史・地理・文化・自然にかかわる調査・研究をとおして、児童・生徒の学習や生涯学習につながる有効的な資料作成の推進に努めると共に、作成した資料の有効的な活用を図り、学校教育に携わる者及び一般の方に学習の機会を提供していきたい。

　今後も郷土調査研究をさらに深め、郷土の地理・歴史に関する「研究紀要」や「諏訪の歴史ハンドブック」、郷土の山　八ヶ岳登山に役立つ「登山の栞」の編纂等を通して研究の成果を一般にも紹介し、より公益性を高める。

◇◇◇自然調査研究部◇◇◇

諏訪の自然について
**　もっと知りたい　もっと学びたい**

＜基本方針＞

諏訪の自然の魅力をわかりやすくまとめた『探究・諏訪の自然』を平成29年度に発行し、諏訪教育会定期総集会をはじめ、諏訪博物館主催の自然観察会や各種の会など機会あるごとに“諏訪の自然”の魅力について紹介に努めてきた。手にした会員や地域の方や児童・生徒からは、「身の回りの自然についてわかりやすく記述されていて大変参考になる」という声や「『探究・諏訪の自然』に記載されているあの場所に是非連れて行ってほしい」という声、さらには「授業で使いたいから教材化を」という声も届いている。

　会員や地域の方々の「諏訪の自然についてもっと知りたい」「もっと学びたい」「授業でも子どもたちに伝えたい」という思いを受け止め、この声に応えることのできる自然調査研究部の活動を展開する。

○諏訪の自然に係わる基礎研究と若手の育成
○自然研究と学校教育との連携
○自然観察会への協力
○教育博物館展示写真等の更新と標本の管理・整備
○研究の成果をまとめた自然調査研究紀要の発刊

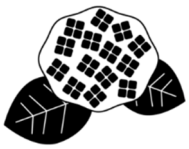
◇◇◇教育博物館部◇◇◇

コロナ禍の中でも昨年度1500人超の来館者
児童・生徒、保護者、教職員が自然や文化を学ぼうとする意欲をもつワークショップ

＜ねらい＞

児童生徒の教育文化の向上を図るとともに、地域文化の発展向上に資することをねらいとして、開かれた魅力ある教育博物館の運営に努める。

○特別展示・ワークショップ
○「教育博物館だより」の発行
　　年3回



◇◇◇特　別　部◇◇◇　令和4年度　諏訪教育会設立140周年

＜情報管理委員会重点＞
諏訪教育会ホームページの管理･運営
ホームページ等を活用した情報発信及び情報収集、情報管理に力を入れる。
＜教職員バスケットボール委員会＞
諏訪の教職員バスケットボール大会発足の原点に戻り、会員の絆を深めることを最重要視するとともに、互いの健康増進をはかり、はつらつとした姿勢で子どもに向かう基礎を築くことにねらいがある点を再確認して、企画運営に当たる。
＜あり方･沿革史委員会＞　諏訪教育会は来年度設立１４０周年を迎える
　児童･生徒、地域のために、諏訪の教職員が一つの輪となって、支え合い高め合う専門職集団として日々を過ごしてきた証として、沿革史を作成していく。昨年度あり方委員会として提案した内容について、再度吟味していく。

『　諏訪教育会が果たしてきたもの　』　諏訪教育会　副会長　溝口　純永

　表題は、令和元年度「諏訪教育会報」第２１４号に、当時の原村教育長でいらっしゃった五味 康剛先生が寄稿されたものと同じです。これまで２００号以上も発行されている「諏訪教育会報」の中で、私が五味先生の寄稿に注目したのは、

・私が教育会幹事を務めさせていただいた時の、諏訪教育会長が五味 康剛先生でいらしたこと
・全くの余談ですが、第２１４号が発行された９月１７日は、私の誕生日であることなどですが、一番の理由は「コロナ禍で、諏訪教育会の果たす役割が未だかつてないほど問われている」と思うからです。

　五味先生は、諏訪教育会が果たしてきた役割について、ご自身が会長を務められた平成２７年度に諏訪地区で行われた信濃教育会定期総集会のパネルディスカッションで語られたこととして「現場の先生方による地道な調査研究」と「目の前の子どもの姿を通しての実践の積み重ねによって、先生方が学び、育ってきたこと」を挙げておられます。同時に、委員会活動や各種研修会に参画する先生方が年々減少傾向にあることを危惧され、諏訪教育会の委員会活動や研修会を大切にし、積極的に参加することで、子どもに誇れる教師になってほしい、と願われていました。
　それから数年。一昨年度から続くコロナ禍により、定期総集会を始め多くの事業が中止、あるいは計画変更しての実施を余儀なくされており、諏訪教育会の委員会活動や各種研修会に参画する先生方がますます減少しかねない危機にあると言っても過言ではありません。しかし、こんな時だからこそ会員の力やアイデアを結集して、五味先生がおっしゃった「諏訪教育会が果たしてきたもの」を何としても守ることが大事と考えます。会員お一人お一人にとって学びがあり、教師として育つ諏訪教育会であり続けたいと願っています。積極的な参画をどうぞよろしくお願いします。

第３７７回　季節大学会（公益社団法人化１０周年記念講演会）

【講師】 池上　彰　氏　令和3年10月　6日（水）　15:00～16:30　カノラホール

　慶應義塾大学経済学部卒。１９７３年 NHK 入局。報道局記者を歴任し１９９４年から「NHK 週刊こどもニュース」初代お父さん役を１１年間続けた後、番組降板と同時に２００５年に NHK を退職。在職中から執筆活動を始め、現在は出版、講演会、放送など各メディアにおいてフリーランスの立場で活動する。鋭い取材力に基づいたわかりやすい解説に定評がある。